

コロナ相場、本番は2022年

国際金融マーケット研究者 豊島逸夫

- * コロナ禍でも情報量は3倍に
- * パウエルFRB議長のジレンマ
- * 日本人が外国人投資家に振り回される理由
- * 注視されるのは依然、黒田日銀
- * 日本株に興味を持ち出した米国年金基金
- * 2022年前半は日米とも調整局面入りか
- * 120円もありうる円安環境に
- * 為替市場を動かす米系投資家の実態
- * 一転、コモディティは下落傾向に
- * 金価格が下がるに見える背景



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

このところ毎年秋季にお話をいただいております。1948年のお生まれで、一橋大学を経て三菱銀行、スイス銀行、それからゴールド・カウンスルの日本代表、その後独立されて、今国際金融マーケットを幅広く見ておられます。

先ほどちょっとお話を伺いましたら、コロナで海外に行けないけれども、Zoomでいろんな方とお話をして、情報量がかつてよりだいぶ増えてバンク状態だとおっしゃっていただきました。そういうことで、われわれ日本にいるとなかなかわからない国際的な金融情勢やマーケットの動向について、今日はじっくりとお話を伺えると思います。それでは豊島さん、よろしくお

願いたします。（拍手）

コロナ禍でも情報量は3倍に

豊島 こんにちは、豊島でございます。1年ぶりです、ここに来ると私はほっとするんです。最近、普通のセミナーですと私が見たいいちはん高齢者ですけれども、ここに来ると私の先輩もまだそうとうおられるようです。今ご紹介いただいたように、私も年に5〜6回はニューヨークに行つて、いろいろマーケットのヘッジファンドとかとひざを突き合わせて話をするのがルーティンだったんですけれども、このコロナで当然のことながらそれができなくなりまして。参ったな、情報が入ってこなくなるのじゃないかなと思つたらさにあらず。